

全聴教 夏の研究大会 案内

毎年夏、全国聴覚障害教職員協議会は、各地の関係者、ろう学校等のお力を借りて、「全国聴覚障害教職員シンポジウム」を開催してきました。2020年度は、東京オリンピックと重なる事情を鑑みて休止とし、2021年度夏に、鳥取県にて開催する予定を立てておりました。しかし、現在の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、安全を優先することとして、来年2022年夏に延期することに決定いたしました。

そこで、今年2021年度は、オンラインによる研究会を企画しました。併せて定期総会も行います。実際に顔を合わせることはできませんが、画面を通して、皆様と意見交換、情報交換を行い、学びを深めていきたいと思っております。皆様のぜひのご参加をお待ちしております。

日 時 令和3年8月7日（土）
13:00-17:15 第1部・定期総会
8月8日（日）
9:00-12:00 第2部

方 法 Zoomによるオンライン

対 象 全国聴覚障害教職員協議会会員及び、全国の教育機関に勤務する聴覚障害教職員、聴覚障害教育に関心のある方、学生

参 加 費 本会会員 全日参加2000円（1日のみ参加1000円）
非会員 全日参加4000円（1日のみ参加2000円）
（学生は、それぞれから500円割引とします）

申込方法 7月30日(金)までに、次の方法①②のどちらかでお申し込みください。



①QRコードから参加申込フォームにアクセスして、必要事項を入力してください。

(URLは <https://forms.gle/TVCBYGjEobuNHBP7>)

②全聴教にメールかFAXで申し込んでください。

申し込みの際には、名前、所属先・部、担当教科、連絡先(メールアドレス)、参加日(全日・1日目のみ・2日目のみ)を書いてください。

送信先 メール zencyoken@gmail.com

FAX 047-372-3672 (筑波大学附属聴覚特別支援学校気付)

参加費納入方法 次の口座にお振込ください。

郵便局口座 18410-25652251

「全国聴覚障害教職員シンポジウム」

ゆうちょ銀行 八四八支店 普通 2565225

※参加費の納入をされた方のみに、Zoomの入室方法等をご連絡します。

<お願い>

本研究会では、Zoomを使用します。各自で、パソコン、タブレットにアプリ等をインストールしてください。スマートフォンでも可能ですが、お勧めできません。またあらかじめインターネット環境をご確認ください。

開催前に、当日視聴用のURLをメールでお届けします。お申し込みいただいたメールに連絡をさせていただきますので、必ず受信ができるように設定をお願いいたします。



第一部

8月7日(土) 13:00-16:00



講演「社会の中における手話 ～社会言語学の視点から～」

中島 武史 先生

大阪府立だいせん聴覚高等支援学校 英語科教諭
関西学院大学手話言語研究センター 客員研究員

本会では今まで手話、日本語を含めた言語について、教育学、心理学等様々な視点において、研修を進めてきました。今回は、現役の教諭であり、大学で研究を続けておられる中島武史先生に、社会言語学の視点でとらえた、手話言語とそれを取り巻く状況(学校や社会等)についてお話いただくことになりました。

「社会言語学」とは、社会の中での言語の役割、言語と社会の関わり方について分析する学問と言われています。私たち教員も、日本語や手話について考えたり、話し合ったりしてきましたが、「社会を通してことばを見る」ことはあったでしょうか。

ここでは、社会言語学とはどんなものか?から始まり、日本におけるマイノリティ言語(手話、外国人、非識字者等の問題)についてのお話、現在いまだに残る多言語社会への不寛容さ、手話と取り巻く社会と学校のあり方をお話しいたします。

【経歴】 きこえない父ときこえる母のもとに生まれたコーダ。関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科博士前期課程修了(修士/言語科学)。大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程修了(博士/言語文化学)。2007年より二つのろう学校で、中高の英語科を指導。関西学院大学手話言語研究センターの客員研究員を兼務。

【著作物】 「ろう教育と『ことば』の社会言語学 手話・英語・日本語リテラシー」生活書院 2018年

「対抗する言語 日常生活に潜む言語の危うさを暴く」(第10章「言語的弱者への見えにくい排外主義と対抗理論: 障害者を中心に、外国人・非識字者も視野に入れて」担当)三元社 2021年

定期総会 8月7日(土) 16:15-17:15

全国聴覚障害教職員協議会正会員の皆様はぜひご出席ください。
総会のご案内は追って郵送します。

第二部

8月8日(日) 9:00-12:00

実践報告・討議

「ICTを活用した教育現場からの報告 ～聴覚障害教職員の指導と工夫～」

2020年はまさに新型コロナウイルス感染症に振り回された年でした。2月末からの休業で教育現場があおりを受けた中、ICTの役割はますます大きくなっていきました。文部科学省からも、今年の1月に、緊急時におけるICTを活用した学習支援について通知が出て、今後の教育現場において、ICTのスキルがますます求められるようになりました。ろう難聴教職員も例外ではなく、きこえない立場でならでの活用方法や工夫をこらしている先生もいるようです。きこえにくい子どもやその他のニーズを併せ持つ子どもへの指導での活用、また音声認識ソフトやアプリを指導の場のみならず、職場の会議や保護者との懇談等の情報保障で活用しているケースも見聞きます。一方で、小学校で必修と化したプログラミング教育をどのように進めるかといった指導上の悩みや、ICT機器の整備状況の地域の差、教職員の活用指導力の向上等、課題が山積みとなっています。

今回は、全校各地のろう学校や地域の学校等の教職員および関係者に、ICT教育の実践を報告していただきます。併せて、私たちが抱えている課題や疑問についても出し合って、討議を進めていきましょう。

実践報告

- ◎ろう学校の取り組み1 工藤文紀(元青森県立青森聾学校
・現青森聴覚障害者情報センター)
- ◎ろう学校の取り組み2 松本大輔(横浜市立ろう特別支援学校)
- ◎小学校難聴学級の取り組み 奥沢忍(つくば市立竹園東小学校)

